



「インスピレーションになろう」 BE THE INSPIRATION

2018-19年度 RI会長／バリー・ラシン RI.D2590ガバナー／金子 大 横浜旭RC会長／市川 慎二

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NJTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com

Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(㈱岡田屋 3階会議室)

例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



被災地の子ども達にXマスプレゼント



チャリティーコンサート



ガールスカウトとクリーン作戦

2018年9月26日 第2353回例会 VOL. 50 No. 12

■司 会 SAA 後藤 英則

■開会点鐘 会 長 市川 慎二

■斉 唱 手に手つないで

■出席報告

会員数	31名	本日の出席数	25名
本日の出席率	89.29%	修正出席率	96.55%

■本日の欠席者

増田、齋藤、福村

■他クラブ出席者

増田 (新横浜 RC)

■ゲスト

小笠原清基様

(日本文化継承者協会代表理事、弓馬術礼法
小笠原流三十一世宗家嫡男)

○体験例会出席者

上尾 和大様 (横浜 FC 代表取締役)

金子 光広様

土谷 竜郎様 (㈱協進代表取締役)

西田 貴麿様 (土地家屋調査士)

粕谷 武様 (森ビル勤務)

堀田 直幸様 (リージェン代表取締役)

寺尾三樹男様 (横浜プロバスクラブ)

中村 近宏様

進藤 延二様 (鎌倉手作り甲冑トンボの会会長)

中尾 慶次様 (鎌倉手作り甲冑トンボの会教育担当)

飯島 泰様 (小机商店街副理事長)

石井 聖様 (横浜信用金庫鶴ヶ峰支店長)

■会長報告

皆様、こんにちは。本年度、会長を仰せつかりました市川慎二と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

本日は、あいにくの雨の中、横浜旭ロータリークラブ体験例会に、多くのお客様をお迎えできましたことを嬉しく思います。

卓話者には、日本文化継承者協会代表理事、弓馬術礼法小笠原流三十一世宗家嫡男、小笠原清基様をお迎えし、流鏝馬や日本の伝統文化についての貴重なお話を伺います。

この体験例会ではクラブ会員との親睦を楽しんで頂き、そしてロータリークラブの活動や例会の雰囲気を知っていただければ光栄でございます。

まず始めに、ロータリークラブと横浜旭ロータリークラブについて、少しご紹介させていただきます。

ロータリークラブの誕生は、1905年のシカゴで始まりました。20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになり、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に堪えかね、友人3人と語らってお

互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいという趣旨で、このロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは例会を各自の事務所を持ち回りで、順番に開くことから名付けられたものです。

こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生し、志を同じくするクラブが、次々に各地に生まれました。国境を超え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数35,705、会員総数1,201,005人(2018年7月13日RI公式発表)に達しています。

日本全体でのクラブ数は2,258、会員数87,807人となっています。

わが横浜旭ロータリークラブは、1970年1月13日にチャーターメンバー26名によって設立され、来年には創立50周年を迎えます。これまでの主な活動としては、中学生の職場体験学習の受け入れ、旭高校・旭陵高校での職場講話などの職業人としての活動や、絶滅の危機に瀕している黒メダカの配布を行い、失われていく命の尊さや、環境保全の大切さを子ども達に知ってもらう機会を設けるなど、次世代を担う青少年への活動などを行ってきました。

現在では東日本大震災復興支援のチャリティーコンサートを開催したり、宮城県岩沼市の幼稚園、保育園を訪問し、被災した地域の子ども達へサンタクロースに扮してクリスマスプレゼントの配布、熊本地震では、被災地にリサイクル自転車を提供しました。また、地域の方々へ情報提供として県立がんセンター協力のもとがんセミナーの開催や、外国人の子ども達への日本語支援の協力、ガールスカウトとの清掃活動等、多方面にわたって積極的に活動をしています。

清掃といえばイエローハットの創業者である鍵山秀三郎氏は、掃除で会社を大きくしたという有名な話があります。多くの小学校や中学校、数多くのロータリークラブでも講演されておりますが、子ども達には「頭の良い

人になりなさい」と伝えるそうです。その頭の良い人というのは、勉強ができる、何でも知っているということではなく、頭の中で、いつも良いことを考えている人のこと。たとえ勉強ができて、頭で悪いことを考えていれば頭の悪い人です。自分の手や体を、例えば地域の掃除といった良いことに使う人は、頭でも良いことを考えるようになると言われていました。

このロータリークラブは、自分自身と自分の職業の価値品位を高めながら、社会のため、人びとのために、親睦と奉仕を通じて、まさに良いことをしようという志をもつ異業種職業人の集まりです。

今、ロータリークラブでは新しい仲間、新しい知識、新しい力を求めています。今後も活動を継続、発展させていき、また、生涯にわたる親友も増やせるからです。本日お越しの皆様、少しでも興味がある方は、ぜひご入会していただき、ロータリーライフを一緒に楽しみましょう。会員一同、大歓迎お待ちしております。

さて、本日は災害時緊急支援基金設立となります。後程、五十嵐災害委員長より報告をお願い致します。

○地区関係

1) 会長幹事会開催

日時 9月27日(木)

場所 新横浜国際ホテルで

市川と安藤幹事が出席致します。

2) 地区ロータリー財団セミナー

日時 9月27日(木)

場所 ソシア21

太田勝典会員が出席されます。

○クラブ関係

1) 第8回理事会を開催

日時 10月3日(水) 例会終了後

■幹事報告

1) 例会臨時変更のお知らせ

○横浜あざみロータリークラブ

日時 10月10日(水)休会

日時 10月24日(水)移動例会 講演会

場所 アートフォーラムあざみ野

○神奈川東ロータリークラブ

日時 10月26日(金)移動例会 優良職場訪問

日時 11月30日(金)夜間例会

■災害対策委員会 五十嵐 正

クラブ災害支援基金の指針がまとまりましたので、設立の経緯をご説明いたします。

東日本大震災以降クラブでは災害対策委員会が設立され、十年近く様々な支援活動をして参りました。その経験から支援の在り方について、有効性が問われる時代になって参りました。

日本は自然災害を含め様々な不測の事態に備える必要があることは、誰しも異論はないと思います。災害に備える事に、自助（自ら備える）共助（ご近所、地域で助け合う）公助（国や自治体が活動する）があります。その中でも、緊急時は共助が重要な役割を担うこととなります。

その共助にこそロータリークラブの存在価値があります。地域の事情に精通し、日本全国に約2,000クラブ、世界に35,000クラブの仲間が、奉仕の理想のもと形成されております。ただ、大きな組織故の迅速性に欠けるところもございます。

被災地域に素早い支援、時代はその支援の効率化、有効性、透明性が求められることとなります。地域の人間的な触れあいのなかで被災者ニーズを発見し、寄り添う支援の在り方。支援したい側と受け入れ側のミスマッチからの支援物資の2次災害を防ぐ施策。

大きな課題ですが、その課題に対し、事前の準備が出来、迅速な支援に結びつける方法に、災害基金の構築がその第一歩とし「横浜旭ロータリークラブ災害支援基金」を開設の考えに至り、委員会にてその指針をまとめました。

指針がまとまり、委員会の予算から1万円を拠出し、本日スタートいたします。

今後管理規定等まとまりましたら、地域の皆様にもお声かけさせていただき、基金を充実させ、災害に備えて参りたいと考えており

ますので、本日お客様にもお願いすることとなるとお思いますので、その際はご協力をお願いいたします。

○横浜旭 RC 災害支援基金の指針

- ①災害に際して、これまで多くの犠牲に遭遇し、その教訓として今、私達が出来る事を迅速に行動に移す為に、基金を設立する。
- ②被災地ロータリークラブの支援事業に特化し、被災地に寄り添った支援、効果的な支援を目指す。
- ③基金は緊急時の対応であり、その後の継続的な支援については、持続可能でかつ人々の自立を支援するような、ロータリーらしい奉仕が求められていることは言うまでもない。自然現象を含めて、ロータリーも不測の事態に備えて、危機管理を今まで以上に充実しなければならぬ時代に対応する。

（③は第2650地区災害指針より引用）

■創立50周年記念事業委員会 関口 友宏

日時 9月19日(水)例会終了後

場所 例会場

○確認事項

- 1) 国際奉仕委員会が進めている地域ボランティア教室「ひまわり学園」への教科書贈呈に協賛する。
- 2) 旭区役所生誕50周年記念事業「里山ガーデンの整備」と連携、当委員会の具体案の検討を進める。

なお、記念事業に関する区との交渉は全て当委員会が窓口になって行うことを確認する。

- 3) 記念事業に関するご提案等があれば、11月21日の定例委員会までにお申し出下さい。
- 4) 各委員会は次回の会議までに、計画概要の準備をする。

■ニコニコBOX(会員敬称略)

寺尾三樹男様(横浜プロバスクラブ) / 皆様こんにちは。何年かぶりの例会に出席させて頂きます。どうぞプロバスにもお越し下さい。中村近宏様 / 友人の寺尾さんに誘われて富士の山から参りました。よろしくお願ひ致します。

市川 慎二 / ①小笠原清基様のご高説を拝聴

できますこと、大変嬉しく思います。②本日の体験例会に多くのゲストの皆様をおむかえ出来ました事、感謝致します。

安藤 公一／①小笠原様、ようこそお出で下さいました。本日の卓話宜しく願い致します。②体験例会にご参加頂いた皆様、当クラブの例会を楽しんでいって下さい。

五十嵐 正／①体験例会にお越しのお客様、本日はようこそ。ロータリークラブの例会をお楽しみください。②妻の誕生日に素敵なお花をいただきました。有難うございました。

吉原 則光／①体験例会にお越しの皆様、天候不順のところ有り難うございます。②本日の卓話の小笠原様、ご多用のところ有り難うございます。よろしく願いします。楽しみです。

佐藤 利明／小笠原清基様、本日の講演よろしく願いします。又、本日の体験例会においで下さいましたお客様、有難うございます。是非入会いただきますこと、ご期待申し上げます。

二宮 登／①小笠原清基様をお迎えして。②進藤様、中尾様、飯島様ようこそいらっしゃいました。

内田 敏／①お忙しいところ、旭 RC の体験例会に参加して頂きましたお客様、本日は有難うございます。短い時間ですが、お楽しみください。②小笠原清基様、本日の卓話楽しみにしています。よろしく願い致します。

関口 友宏／ゲストの皆さん、ようこそお出掛け下さいました。

兵藤 哲夫／ゲストも皆様ようこそおいで下さいました。よろしかったら仲間になりませんか。

後藤 英則／体験例会の皆様、ようこそいらっしゃいました。例会をお楽し味下さい。

田川 富男／私事ですが、息子夫婦が旭区中沢に家を建てました。家族は近くに住むと安心です。

岡田 清七／体験例会の皆様、ようこそ。

太田 勝典／土谷竜郎様、体験例会の皆様、ようこそ。末永いお付き合いが出来ることを

期待しております。

青木 邦弘／体験例会にお越しの皆様、ようこそいらっしゃいました。

大川 伸一／①本日お越しいただいた方々、ありがとうございます。②小笠原様、本日の卓話を楽しみにしています。

今野 丁三／体験例会にご出席の皆様、ようこそいらっしゃいました。

柳沢 哲也／体験例会参加の方々、よろしく願い致します。私が一番新参者なので、新規加入、心待ちにしております！

須藤 亘／本日は体験例会へ多くの方々にご参加頂きありがとうございます。どうぞ楽しんでいってください。

目黒 恵一／本日は雨の中、体験例会にようこそ！感謝！

北澤 正浩／体験例会にようこそ。

太田 幸治／①横綱白鵬の全勝優勝、まだまだ行けそうだ。②貴の花親方問題、皆様どうおもいますか。私が昨年協会の広報室に行きました時、1階にあった部屋が地下に移転、入口に「新聞記者及び関係者以外入室お断り」の張り紙があり、どうなっているんだろうかと。③小笠原清基さんの卓話楽しみにしておりましたが、昭和医大藤が丘病院に予約があり、途中退場、残念です。

■卓話「小笠原流八百有余年の道統」

小笠原 清基様



ご紹介ありがとうございます。堀田さんのお話しにもありましたが、私も旭区の市会議員古川さんとのご縁がございまして、本日ここに参りました。本日は自己紹介と小笠原流

の紹介そして流鏑馬のお話をさせていただきます。

小笠原流と申しますと礼法とご理解していただいている方もいらっしゃると思いますが、実はいろいろとしております。先ず小笠原家ですが、第56代清和天皇の流れをうけております。因みに第50代桓武天皇は都を平城京から長岡京、そして平安京に遷都された天皇です。大変古いことがお分かりいただけだと思います。武田家、新田家、足利家、なども同じ清和天皇の流れになっております。

小笠原家は鎌倉時代から江戸時代にかけて将軍家の指南役として代々仕えておりました。何を指南したかと申しますと、先ず、礼法、例えば日常の食事作法や立ち居振る舞い、そういったことだけではなく、婚礼式、七五三の儀式といったものを司どって参りました。そして馬には乗らない、弓術、そして馬の上で弓を引く弓馬術なども鎌倉時代から将軍家に伝えておりました。こういった将軍家に教えるということが、江戸時代までの仕事だったのですが、明治にはいり將軍制度がなくなりましたので、仕事を失ってしまいます。そこでその当時の宗家、28代清務は流儀を教えることを専門職としてはいけないと禁じました。その後28代以降、別に仕事を持ちながら、休日または就業後に流儀を教えるという道をとりました。

現在は31代、私の父清忠が家督を継いでおります。この31代になりましてから海外での講演が増えて参りました。先月はロシアで行いましたし、これまでフランス、イギリス、フィンランドなど様々な国で流鏑馬など行っております。

2001年にイギリスで行いました時は、日本とイギリス両国の皇太子の御臨席を賜りまして、ハイドパークにて流鏑馬をさせていただきました。

小笠原家初代は長清と申しますが、そこから私まで男子直系で続いてきております。男子直系とは長男である必要はなく、男の血をひいていれば良い。でするので、もし私に男の



兄弟がいれば、私ではない他の兄弟が継ぐかもしれませんが、残念ながら、父の兄弟も、私の兄弟も女しかおりませんので、継がないわけにはいかない状態になっております。ただ、私の息子が男なので、私を飛ばしていくこともあるかもしれない、ということで、つまり小笠原家というのは、血が大切で、次に技術、というよりは、継ぐに値する人間性が大切であるというようになっております。

次に流鏑馬のお話をさせていただきます。流鏑馬といいますと、多くの方は馬の上で弓を引く。これが流鏑馬であると思われるようですが、これは大きな誤解でして、馬の上で弓を引くとは弓馬術、あるいは騎射というふうに表現されます。小学校あるいは中学校の社会で、騎射三つ物と習うと思いますが、騎射、弓馬術という大きな括りの中に流鏑馬というひとつのカテゴリーがあり、そして笠懸、犬追物というカテゴリーがあるわけです。

では、簡単に申しますと笠懸というのは、遠くの的を引きます。そして犬追物というのは動いている物を引きます。この笠懸と流鏑馬は現在でも行っておりますが、犬追物に関しては明治期に中断しております。明治期にグランド将軍が上野で犬追物をご覧になりました。そうしましたら随行のご婦人方が、何故そんなことをするのかと仰られ、いわゆる動物愛護団体的思想で中止に追い込まれました。ですから犬追物は明治以降日本で行われたことはありません。

ただ、通常の流鏑馬の矢の先は小さめの鏑を付けますが、犬追物に使う矢の先には、大

きな鏑を付けます。大きいものが当たるのと、小さいものが当たるのでは衝撃が異なります。犬追物で使う矢は大きい鏑を使うので、犬が死なないように工夫をしていたのですが、端から見ていると犬を追いかけて引くため、そういう配慮を気にしてもらえず、完全に中止となってしまいました。

そして流鏑馬ですが、元々は流鏑馬とは言わず、当時は狩りの練習であり、敵を倒す練習でしたが、平安時代に公家によって儀式化されております。ここで初めて流鏑馬という言葉になっていくわけです。

鎌倉時代になりますと、公家の流鏑馬からより武家に合った、無駄を省いた質実剛健な流鏑馬が出来上がってまいります。そして一時衰退し、江戸時代に復興する流れとなります。

鶴岡八幡宮で9月16日に行われている流鏑馬というのが、こちらの流鏑馬になります。こちらは公家文化を参考にして1187年に鶴岡八幡宮で初めて披露されました。この披露された中に小笠原家初代がいたため、現在も小笠原家が9月16日の流鏑馬に関わらせていただいております。江戸時代、8代吉宗公が復興したのですが、その際にも小笠原家が関わっております。ですから小笠原家は鎌倉時代と江戸時代両方に関わっております。

流鏑馬の定義をご説明したいと思いますが、こういった時代背景がございます。鎌倉時代と江戸時代の流鏑馬では、大きく何が違うの

流鏑馬の装束



かと申しますと、装束に大きな違いがございます。

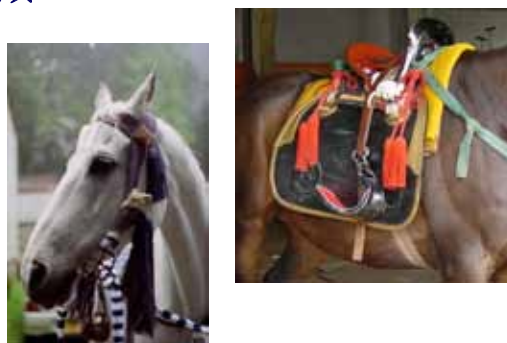
写真左ページ下、向かって左側の3つの写真が鎌倉時代、右側の2つの写真が江戸時代の装束になります。鎌倉時代の装束は、鎧直垂（よろいひたたれ）といい、狩りの時に着る装束です。鎧直垂は鎧の下に着る装束であり、そして、その鎧直垂の上に鹿革を付けます。これは草むらに入ると装束が汚れてしまうため、鹿革でカバーをするということです。そして矢を箆（えびら）という箱にのせて弓を引いていくこととなります。

一方江戸時代になりますと、袴、あるいは帯の所に、矢を差すという非常に簡易的な形になります。装束も単なる袴となっていきます。

このように大きな違いがありますが、この違いはどのように生まれたかと申しますと、この鎌倉時代の流鏑馬の式形というのは非常に難しいのです。馬の乗り方が非常に難しい。これが難しいので簡略化して江戸時代のスタイルを作ったといわれております。ですので、現代の我々もまずは江戸時代の装束でしっかり出来るようになってから、鎌倉時代の装束を着ましようということになっております。

そして馬具です。こちらは西洋の馬具ですが、鎧といいまして足をかける場所がございます。西洋の鎧はわかか状になっておりますが、日本の場合はスリッパ型になっております。これが先ず一つの大きな違いとなります。

馬具



そして鞍の部分。鞍の本体部分ですが、日本の鞍は4つの木を組合せたもので作られていますが、西洋は皮や布で作られています。

日本の鞍というのは、江戸時代までは作られていましたけれど、明治になってからは作られておりません。ですので、普段私達が流鏑馬に使っている鞍は、200年、300年前に作られた鞍を大切に使っているということです。

では、何故作れないかと申しますと、鞍というのは前と後ろをご覧いただけるとお分かりのように、湾曲をしております。この湾曲は、湾曲した木を育てなくてはいけない、木を育てるには80～100年かかってしまうので、つまり木を育てる為だけの専門の職人さんがいたということです。

そして、使用する馬ですが、昔は木曾馬、御崎馬といった在来種でしたが、明治になってそういった馬は淘汰されてしまいます。その後現在ではサラブレッドが中心になっていて、様々な馬がおります。日本の在来馬を使うことが重要だといわれる団体の方もいらっしゃると思いますが、我々はそうは考えておりません。昔は日本に在来馬が沢山いたので、その馬を使って流鏑馬をした。今は、在来馬より他の馬が沢山いて、戦に出た時にはその馬の方が強い、であるならばそういった強い馬を使うべきではないか、というのが私たちの考え方です。その為に、私たちは自分たちの馬を持たないようにしています。

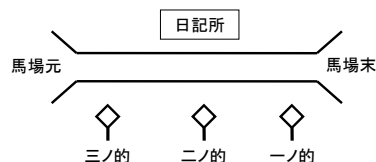
鎌倉で、あるいは京都、九州で流鏑馬する場合には、その近くの乗馬クラブから馬をお借りします。ですので、短い時には本番当日の朝に会って、何回か乗って、本番を行うようなこともございます。危ないこと、危険なことも多いのですが、そういった中でも同じように技が出来て、乗りこなすことが出来るといった技量を身に付けることが重要であろうと考えております。

ようやく流鏑馬の定義に入りますが、流鏑馬と言いますのは先ず神事、神様への儀式がございます。そしてその後移動して3つの的を走りながら引いて行く。というものが流鏑馬の定義です。五穀豊穰、国家安泰というものを祈願します。

この流鏑馬には様々なお役目がございます。

流鏑馬を構成している役

- 総奉行：流鏑馬を総括する役
- 日記：射手の中り外れを記録する役
- 的奉行：中り外れを判断する役
- 馬場元・末：馬場の安全を確認する役
- 才上げ：中ったことを日記役に教える役
- 幣振り：記録したことを各的に知らせる役



例えば中り外れを判定する的奉行、あるいは日記役といいまして、中り外れを記録する。この日記役を、昨年古川さんをお願いしました。こういった様々なお役があるわけですが、この様なお役の動き方なども鎌倉時代から伝わっております。お役を地元の人をお願いすることが多いのですが、事前に少し御稽古をしていただいで、その動きで行っていただいております。例えばお役の中に、射終わった矢を返していく動きがあります。この簡単な動きのなかにも一つの考え方がございます。矢というのは羽が上という上下があります。そうした場合に渡す人、渡される人の位、位置関係が受け渡しに反映されます。例えば渡す人より渡される側の方が上の場合には、必ず上側を取っていただけるようにお渡します。意味のある決まりしか伝わってきません。

そしてお役の方には様々な装束を着ていただきますが、こういった装束も昔から伝わっているものを使っております。

流鏑馬というのは、どなたでも簡単に出来るというものではございません。

昔は10代からはじめた方がいいと言われてましたが、最近は30代40代から始められる方も多くいらっしゃいます。出来なくはないところでもありますけど、中々難しいところがあるかも知れません。

この稽古方法が我々特殊でして、多くの方が生きている馬に何回も乗って、そしてどんどん弓を引く、ただただその稽古をしている



ように思われますが、我々は生きている馬に乗ることはほとんどございません。

こういった礼法、立ち居振る舞いによって必要な筋力を付けます。そして弓を引く練習をしまして、木馬に乗って型の稽古をします。

武士が700年かけて命をかけて作った技は、今の人達がちょっと考えるだけで越えられるものではない。つまり彼らが作った技をしっかりと身につけることこそが重要であるというのが、我々の考えですので、この木馬に乗って稽古をします。馬に乗っている時は、お尻は鞍についていないで浮いています。そして膝も開いております。馬に触れるのは踵だけ、そういう形で乗っています。(写真右上)

簡単に申しますと、空気椅子に乗って足を開いている状態です。ただ、踵で馬を抑えてしまうと、馬が痛くて早く走ってしまうので、踵は馬に触れているだけという特殊な姿勢で乗っています。この特殊な姿勢で乗り続けることが難しいのです。

木馬



基本の型を稽古

的的的の間のタイミングや、狙いを稽古



鎌倉時代の装束では、箆という箱に矢をつけているのですが、馬の上下運動を受けてしまいますと、矢が箱から飛び出てしまいます。ですので、しっかりとお尻と鞍の間に空間をもたせて、馬の反動が自分自身にこないようにしなくてはならない。一方江戸時代の装束は帯に矢を挟んでおりますので、多少上下しても大丈夫なわけです。ですから、鎌倉時代の装束を着て流鏝馬をするには、しっかりと姿勢を維持する事が重要であるということです。

このように流鏝馬というのは、ただ走って弓を引くだけと思われがちですが、実は多くの日本の伝統文化、武士の技が含まれているものなのです。見ただけでご理解いただくことはなかなか難しいとは思いますが、是非多くの方に伝統文化の表面的なところだけでなく、深い所をご理解いただければと常々思っているところです。

もしかしたら、来年旭区でも流鏝馬を行うかもしれないという話になっております。

是非その際には、表面的なところだけではなく、後ろの背景を御理解いただければと思っております。

本日はありがとうございました。

■次週の卓話

10/10(水)→13日(土)移動例会

米山梅吉記念館訪問

週報担当 今野 丁三